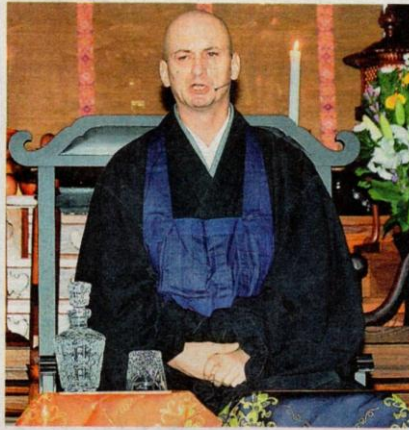


高崎 曹洞宗婦人会の
関東管区研修会が
4日、高崎市吉井
町の仁叟寺で開かれ、ド
イツ出身で兵庫県の安泰
寺の住職を務めるネルケ
無方さん(48)による講演
会などが行われた。
ネルケさんは「遠路は
るばるニッポンへ〜青い
目が見た ZEN」と題
して講演。ユーモアを交
え、禅を学びにドイツか

外国人が見た「禅」

ドイツ出身の住職語る



柔らかい語り口で会場を楽しませた
ネルケさん

ら来日した経緯などを語
った。
16歳の時に初めて禅を
体験し、「姿勢が変わる
と自分が変わる」と感じ、
以来禅を続けていたと説
明。子どものころから、
なぜ人は生きるのかとい
う疑問を抱き続けていた
と話し、「お釈迦様も同
じ問いを持っていたと知
り、親近感を抱いた」と
振り返った。

外国人が見た「禅」

ドイツ出身の住職語る

曹洞宗婦人会の関東管区研修会が4日、高崎市吉井町の仁叟寺で開かれ、ドイツ出身で兵庫県の安泰寺の住職を務めるネルケ無方さん(48)による講演会などが行われた。

ネルケさんは「遠路はるばるニッポンへ〜青い目が見た ZEN」と題して講演。ユーモア交え、禅を学びにドイツから滞日した経緯などを語った。

16歳の時に初めて禅を体験し、「姿勢が変わると自分が変わる」と感じ、以来禅を続けていたと説明。子どものころから、なぜ人は生きるのかという疑問を抱き続けていたと話し、「お釈迦様も同じ問いを持っていたと知り、親近感を抱いた」と振り返った。